

自己を見つめ、よりよく生きようとする児童の育成  
～他者との対話の中で、考えを深め合う授業づくりを目指して～

岩国市立麻里布小学校

① 本校では、「議論する必要性のある発問の工夫」「道徳的価値の理解をより深めるための実践や道徳的課題の共有」「道徳的実践への意識を高めるための工夫」の3つを柱とし、3つの部会に分かれて研究を進めた。

- ・「議論する必要性のある発問の工夫」→3つの発問を柱とした授業づくり
- ・「道徳的価値の理解をより深めるための実践や道徳的課題の共有」→道徳ノートの効果的な活用法の共有
- ・「道徳的実践への意識を高めるための工夫」→体験活動や地域人材を取り入れた教材づくり

② 第1学年 れいぎたしいことは「どちらがいいかな」  
第3学年 自分に正直に「まどガラスと魚」  
第6学年 広く受け入れる心「ブランコ乗りとピエロ」



③ ア 3つの視点（視点1：児童が自分事として考えることができる導入の工夫・視点2：価値葛藤場面での思考を広げるための発問の工夫・視点3：道徳的価値に対する思いや考えをまとめ、今後の生活につながる振り返りの工夫）に沿って授業をつくること。

イ 道徳的価値に対する思いや考えがまとめられている道徳掲示を各学年で作成し、児童の学びを可視化することで、価値理解で終わらせることなく、実践力を高めること。

伝え合い 響き合い 認め合う 授業の創造  
～対話と協働のある学びをすべての授業で～

周南市立秋月中学校

① 本校では、「授業における話し合いのスキルアップ」「思考ツールの活用」「地域参加型道徳の実践」の3つを重点的に取り組んだ。

② 第1学年 節度を守るために 「山に来る資格がない」  
第2学年 公平な社会の実現 「迷惑とは何ぞ」  
第3学年 郷土を愛する思い 「千年先のふるさとへ 一宮城県女川町」



③ ア 育成すべき道徳的価値の系統性を意識して体系的に授業を実施し、「教える」道徳から教師も一緒に「考える」道徳への質的な転換を行うこと。

イ 地域の方や保護者の方が参加した地域参加型道徳を毎週実施できる環境を整え、生徒が多様な価値観に触れることができる機会の充実を図ること。

# 「考え、議論する道徳」の授業づくり

## ～「やまぐちっ子の心を育む道徳教育」プロジェクト

### 2年次推進校の実践～

山口県教育庁義務教育課 令和8年3月

山口県教育委員会では、学習指導要領の趣旨並びに、児童生徒、学校、家庭及び地域等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育の推進と道徳科の授業についての実践研究を行い、その成果を普及することをねらい、「やまぐちっ子の心を育む道徳教育」プロジェクトを実施しています。

このリーフレットでは、本プロジェクトの2年次推進校（令和6・7年度指定）の実践事例を紹介しています。指導案等の資料は、義務教育課のHPに掲載していますので、今後の道徳教育の推進と道徳科の授業づくりの参考としてください。

#### 【各学校の実践事例の見方】

研究主題 学校名

①研究概要：1年間の取組の概要紹介

②道徳セミナーにおける公開授業

③2年間の研究を通して、「ア 道徳科の授業改善」「イ 道徳教育の充実」のために必要と思われるポイント



義務教育課HP



わかる喜び、できる楽しさを知り、主体的に学ぶ児童の育成  
～考え、議論する授業の充実をめざして～

柳井市立大畠小学校

① 本校では、児童の実態から内容項目、「A 主として自分自身に関すること」より「個性の伸長」、「B 主として人との関わりに関すること」より「友情、信頼」、「相互理解、寛容」を中心に研修を積み重ね、自己肯定感の向上、話し合いを通して多様な考えをもつこと、主体的に考えることにつながるよう取り組んだ。また、中学生や地域の方にも授業に参加していただくなどの地域連携を図ることで、多面的・多角的な考えから深い学びにつながるよう取り組んだ。



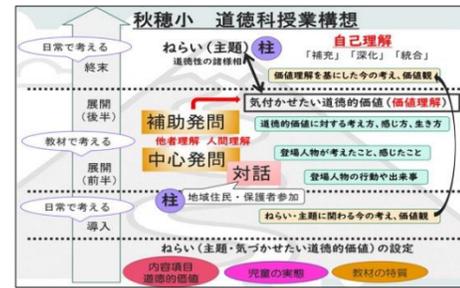
② 第1学年 ともだちがいいな 「こころはっば」  
第3・4学年 友情を深めるために 「いっしょに遊ばない」  
第5学年 わかり合うために 「ブランコ乗りとピエロ」

③ ア 教材研究時に「教材分析シート」を活用して、ねらいとする道徳的価値に迫るための発問の工夫をすること。

イ 地域人材を活用することで、多面的・多角的に考え深い学びにつなげること。また、児童の発言等を地域の方や児童同士に認めてもらうことで、自己肯定感や自己有用感を高めること。

自分の考えを他者と伝え合うことができる子どもの育成  
 ～「対話」を通して考えを深め、自己を見つめる道徳科の授業づくり～

山口市立秋穂小学校



① 本校では、研究主題に基づき以下のように取り組んだ。

**研究の柱1**「主題・気付かせたい道徳的価値の明確化」

- 教材や内容項目、児童の実態の分析を全教職員で実施
- 授業の中心、対話させたい部分を明確にした授業づくり
- 発問や学習活動等の在り方をまとめた授業構想の共有

**研究の柱2**「地域住民や保護者の参加型の授業」

- (1) ゲストティーチャー型 (2) おとな同級生型 (3) 学習サポーター型の参加方法
- それぞれの利点を活かした活用（ペア学習、グループ対話の充実や、児童の考えの深まり等）



② 第1学年 ひろがる あたたかいこころ 「ぼくのはなさいけど」  
 第5学年 伝統を受け継いで 「親から子へ、そして孫へと」

③ ア 考えさせたいことや、気付かせたいこと等、教師の指導の意図を明確にした上で授業づくりをしていくこと。  
 イ 道徳科の授業参加はもちろん、全ての教育活動で地域と「ともに学ぶ」活動を仕組むこと。

志と和をもって未来を創る生徒の育成  
 ～考え、議論する授業を通じた表現力の育成～

宇部市立厚東川中学校

① 本校では、特に「目標達成シートの活用」「地域資源（人材等）の活用」「ICT機器の活用」の3点に重点的に取り組んだ。

- 「目標達成シートの活用」→活動の視点と具体的な行動を明確化する
- 「地域資源（人材等）の活用」→地域資源を生かすとともに異年齢との交流を活性化させる
- 「ICT機器の活用」→物理的な意見交換を活性化させる

② 第1学年 心がこもった仕事 「私は清掃のプロになる」  
 第2学年 思いやりのある行動 「名乗り出なかった友」



③ ア 地域資源（人材等）の活用においては、地域の方々を道徳科の授業に招き、異年齢との意見交流を活発化し、自らの意見を深める活動の機会とすること。  
 イ ICT機器の活用では隣接する中学校とオンラインで授業をつなぎ、多種多様な意見交流の機会とし、考えをより深める機会とすること。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり  
 ～ユニバーサルデザインの視点による道徳授業～

下関市立勝山小学校

① 本校では、ユニバーサルデザインの視点を授業の中に取り入れることで、全ての子どもたちが学びに参加しやすくなる授業づくりについて研究を進めてきた。特に、ユニバーサルデザイン化した授業づくりの中でも「焦点化」を重視し、学びの本質がぶれないようにすることをめざして授業改善を行った。また、「勝山小道徳開きシート」や「勝山小道徳科教材研究シート」を活用し、学校全体でより実践的な取組を行っている。

② 第1学年 だれとでもなかよく 「かずやくんのなみだ」  
 第4学年 正直はだれのため 「新次のしょうぎ」  
 第6学年 広く受け入れる心 「ブランコ乗りとピエロ」



③ ア 2つの視点（視点1：ねらいとする道徳的価値の理解を深める発問の工夫、視点2：ユニバーサルデザインの視点を生かした授業の工夫）に沿って授業をつくること。  
 イ 授業中の子どもたちの様子を、道徳ノートの振り返りや板書等の写真でまとめた道徳授業メモリーを作成し、廊下などに掲示し道徳教育の充実を図ったこと。

豊かな心を育む道徳教育の推進  
 ～自・他のつながりを大切にした学校教育活動の実践～

萩市立田万川中学校

① 本校では、「考え、議論する道徳」実現のための授業力向上と「田万川 PRIDE」を醸成する道徳科の授業づくりをめざしている。また、学力調査の結果から生徒の実態として「互いを尊重した話合い活動はできるが、意見を集約したり、言い換えたりすること」に課題があることが明らかになった。そのため、道徳科の授業で表現力を磨く場面を意図的に仕組むこと、多様な世代や立場の方々と学ぶ「地域道徳」の実践により、同世代だけでは気付くことのできない見方、考え方に触れ「価値観を磨き合う」時間を積み重ねることに重点的に取り組んできた。

② 第1学年 弱さを克服しようとする自分に恥じない生き方 「いつわりのバイオリン」  
 第2学年 公平な社会の実現 「迷惑とは何ぞ」  
 第3学年 法やきまりの意義 「二通の手紙」



③ ア 考え、議論したくなる力のある主発問と補助発問により、十分に議論する時間を確保すること。  
 イ 道徳科の授業の型、地域道徳、表現力の育成、新ユニット型研修、道徳教育の質的向上をめざした「田万川スタイル」の実践を積み重ねること。